

楽楽


<http://asahikon.sakura.ne.jp>

◆練習スケジュール

月/日		会 場	時 間	備 考
12 月	14 日 (土)	旭丘公民館	19:00~21:00	18:00~実行委員会
	21 日 (土)	//	//	
2014 年 1 月	5 日 (日)	新 年 会 (12:00~15:00 中央公民館 302 会議室)		
	11 日 (土)	旭丘公民館	19:00~21:00	
	18 日 (土)	//	//	18:00~ヴォイトレ(全員対象)
	25 日 (土)	//	//	
2 月	1 日 (土)	//	//	
	8 日 (土)	//	//	
	15 日 (土)	//	//	
	22 日 (土)	//	//	
3 月	2 日 (日)	//	//	
	8 日 (土)	//	//	
	15 日 (土)	//	//	
	23 日 (日)	//	//	
	29 日 (土)	//	//	

◆レクレーション係より◆

★新年会へのおさそい★

早いもので今年のへび年もあとわずかとなりました。

来年は演奏会の年。新年会で、皆さんの恒例の出し物を楽しみながら景気をつけたいと思います。
多数の参加をお待ちしています。

日 時：2014 年 1 月 5 日 (日) 12:00~15:00

場 所：尾張旭市中央公民館 302 会議室

会 費：3500 円

酒、お菓子、何でも受け付けます。差し入れ 大歓迎で〜す！！

~~天使がやってきた！！~~

去る 11 月 23 日、休団中のアルト・平尾和子さん、哲哉くん親子が挨拶に来てくれました。

会場に入って来た途端、場内がパッと明るくなり、みんなの注目をあびると、哲哉君が「恥ずかしい…！」と声をあげました。それがまたまた可愛くて会場は大爆笑！

哲哉君ももう 3 歳。しばらくは子育てと仕事で復帰は無理なので退団致しますとのことでした。平尾さん、哲哉君の成長、みんなで応援しています(^◇^)

~いつの間にかパパになっていた！！~

12 月 7 日、めずらしくテナーの水谷彰宏君が情宣にやってきました。驚くなかれ、2 年前の 2 月に結婚をして 1 児のパパになっていました。会場は、彼への冷やかしとおめでとうの拍手で湧き上がりました。セミプロの歌手として活躍しているとのこと。一緒に歌っていきましたが、さすが！この日の男声は迫力がありました。

2014 年 2 月 21 日・22 日・23 日

『時間旅行』ナディアパーク 11F A 席 3500 円

広報委員会より

★「旭混声ホームページ」のリニューアルに関するお知らせ ★

先に口頭でお知らせしましたが、久しぶりにホームページをリニューアルいたしました。その概要をお伝えし、皆さんにも積極的に閲覧および活用、また参加していただきたく願います。

◀ 旭混声合唱団ホームページアドレス <http://asahikon.sakura.ne.jp/> ▶

◎リニューアルの特徴的な点は以下の通りです。

1. 旭混声合唱団の過去から現在に至る歴史を踏まえ、過去の演奏会のステージ写真や、演奏場面のイメージ映像を導入して、対外的に私たちの合唱団活動をより深く知ってもらい、併せて、新たな団員確保につなげていきたい思いを込めています。

※演奏曲は14場面を数十秒としての一部を演奏イメージとして掲載していますが、団内で映像を公開することの了解を求める事情もあり、今しばらくは『団員のページ』に収めています。

2. 『合唱団の紹介』として、第一回演奏会から第8回演奏会までの演奏曲目（ステージ内容）を「合唱団のあゆみ」に分かりやすくまとめています。また、新たに『団員のページ』内「資料室」には、練習用の音源を可能な限り提供していきます。※さしあたり[MISSE BREVIS]の各パートの音源を聴けるようにいたしました。

その他、従来からの「掲示板」「練習日誌」「資料室」（神谷先生のメッセージ）「広報楽々（バックナンバー）」『Link』をはじめ、『団員のページ』内「思い出写真」で2005年以前～2013年までの演奏会での写真や、懇親会などの写真を数多く収載しています。

※「団員のページ」へのPWは、[ohana]です。注意：団外には漏らさないでください。

ホームページは、対外的に情報を発信する手段として、その意義と役割は大きなものがありますが、その内容には正確さと正しい情報が欠かせません。広報委員会としても、十分にチェックすることにはしていますが、お気づきの点がありましたら広報担当者に遠慮なくお知らせくださいますようお願いいたします。ホームページを普段からあまり見ていない方には是非、一度、詳細をご覧いただきたくご案内するものです。なお、ホームページの管理・更新などを（B）近藤鉦太郎さんをお願いいたしました。快くお引き受けいただいた近藤さんには改めて感謝申し上げます。（T）酒井記

◆ イベント情報 ◆

名古屋市芸術創造センター 創造活動サポート後援

第2回 NCO 公演 ホールオペラ「フィデリオ」

指揮：山田信義

合唱：NCO 合唱団

管弦楽：フルハーモニカ・ウィーン・名古屋

2013年12月28日（土）14時開演 全自由席：4000円（当日券4500円）

会場：名古屋市芸術創造センター

「楽楽」200号によせて （その4）

広報 松本義明（ベース）

2003年6月“後っちゃんコーナー”の後藤恵さんがご主人の転勤で退団されたことで、団員へのインタビュー記事は「えみちゃんの突撃インタビュー」に引き継がれます。この平成15年度（2003年4月～2004年3月）は第5回の合唱交歓会が実施され「白いうた青いうた」より「八月の手紙」「ぶどう摘み」「南海譜」と「Ave Maria」「Domine fac Mecum」歌っています。また、人の出入りの多い年となりました。ソプラノの岩本純子さんを始め7名入団されましたが現在残っているのは岩本純子さんだけとなっています。そして忘れてならないのはこの年の4月に待望のホームページを開設出来たことです。この立ち上げにはTの酒井さん、Sの久保さん、Aの松本さん、須寄さん達にに頑張ってもらいました。合唱団の広告塔として、団の技術資料室、練習記録として、現在では無くてはならない存在になっていますが今、工事中で改修作業が鋭意進められていますので、リニューアルされた新しいホームページがお目見えする日も近いと思います。ご期待下さい。

2004年度（2004年4月～2005年3月）も5名の入団者を迎えました、この年は20周年記念演奏会を2年後に控え、イベントは極力絞り、瀬戸合唱フェスと尾張旭市民音楽祭、尾張旭市公民館まつりのみに絞り、来るべき20周年記念演奏会へ向けての練習に専念しました。そんな中で10月にはベースの若手主力戦力であった、末松卓也君が福岡へ転勤のため退団となり残念な思いをしました。

2005年度（2005年4月～2006年3月）5月にAの森下修子さん、6月にTの林 丁三さん、Sの久野さん、8月にSに須田千賀子さん、林優美子、12月にS加藤郁さん、Aの中神梓さん、など多くの新入団員を迎え、20周年記念演奏会に向けて弾みがついた年となりました。

2006年(H18)7月23日、創立20周年記念としての第6回の演奏会を長久手町、森のホールで開催しました。プログラムは1ステージ新実徳英作曲「白い歌青い歌」、2ステージ「木下牧子アカペラ・セクション」3ステージ「20周年記念企画ステージ」、4ステージ團伊久磨作曲「岬の墓」の4ステージ構成です。約1年半に及ぶ活動の結果、ほぼ満員の聴衆の前で団創立以来の最高の演奏で、大きな感動をもらいました。その様子は後に発行された20周年記念演奏会ひとこと集に余す所なく表現されています。10月にはアルトに新人として前川久美子さんをむかえています。「20周年記念企画ステージ」で司会をしてくれた近藤真弓さんが翌年2007年の11月15日に31歳の若さで亡くなったことで団に大きな衝撃を与えました。

2008年(H20)2月16日144号で7回演奏会のステージ構成を発表しています。1ステージ：宗教曲をア・カペラで、2ステージ：「美ら島のうた」より6曲をピアノに加えエレクトーン（須田千賀子さん）の伴奏で、3ステージ：信長貴富作曲「旅のかなたに」。沖縄の音楽を始めて取り上げました。そして5月3日「楽楽145号」でT酒井敏行さんの執筆で「音楽豆辞典」が登場、合唱団の広報らしくなってきました。

9月7日好天にも恵まれ、尾張旭文化会館で実施、客席もほぼ満席で成功裡に終わりましたが駐車場が不足して、開演に間に合わなかった人を多数出してしまう結果となり今後の課題となりました。

2009年9月12日発行の158号から「音楽豆辞典」はT林丁三さんの「おせっかい豆辞典」に引き継がれます。この号からはS植村尚子さんの発案によるインタビュー「～ここをつなぐインタビュー～」も始まりました。

2010年になると、T酒井敏行さんによる＜合唱曲知識箱＞という曲目解説の記事が「チューシャの唄」で始まり「ゴンドラの唄」「青い目の人形」と続き、お役立ちシリーズへと発展していきました。

2011年(H23)のスタートは2月12日172号の編集責任者は嶋田妙子さんで、一面は第8回演奏会の衣装問題を話し合う過程で「禪」の世界に行き着くA森下さんのエッセイ、二面では新年会&新人歓迎会、A平尾和子さんの長男哲哉君の熟睡中の写真と、T長谷川紀夫さんの退団に際し、長年の功績を讃え「感謝状」贈呈の様子を伝え、三面は「おせっかい豆辞典」では「ギリシア神話のハナシ」でネニエの世界を紹介しています。

2011年10月30日 8回演奏会のプログラムは1ステ:宗教曲集 ア・カペラの響き、2ステ:千原英喜作曲「良寛相聞」、3ステ:信長貴富編曲「近代日本名歌抄」4ステ:ブラームス作曲の「ネニエ」を木管楽器奏者6名+ピアノという編成の伴奏で演奏しました。4ステージに挑戦は2回目ですが、各ステージ共に難しい曲で、「私たちの能力を超えている」との声も聞こえてくる中で、必死に頑張り何とか成功させる出来ました。特に今回の演奏会ではオケの人達とのオケ合わせが非常に新鮮で強烈な刺激なり、自身の姿勢をおおいに反省させられました。この演奏会は10月30日の音楽シーズンで、名古屋でのイベントが、目白押しのため観客席が寂しかった点が、渉外担当だった自分としての心残りでした。12月3日181号は「第8回演奏会を終えて」の特集号のようになっています。神谷先生の

「第8回演奏会を終えて」は既に別のプリントで発行され、「自己を卑下することなく、自信を持って普段の自分達を表現すること」「自己満足ではなく真面目に音楽と向き合い更に新しい事に挑み、新しい価値を目指す」とのメッセージを頂いています。この号ではくひとみ先生より>を筆頭に技術委員長の須田千賀子さんをはじめ団員の感動の様子が載せられています。ボイトレのく毛利先生より>ではア・カペラありドイツ語の大曲ありで大変でしたね、お疲れ様との労いと、ア・カペラでの和声感とフレーズの受け渡しにもっと敏感に反応を、ネニエではオケとの再演を希望され、「良寛相聞」では音量、声質共もう一段圧倒的な表現がほしいとの注文受け、同時に旭混声へのエールも頂きました。

2013年4月13日195号では「旭混声ホームページ」団員専用ページの書き込み広場には団員一人一人の想いが記されており、この中からS久野さんと須田さんの合唱連盟の「声楽講習会に参加しました」が抜粋されています。久野さんの結論は「毎週の練習で神谷先生に指摘されている事ばかりでした。旭混声で週1回歌う事は、この講習会に匹敵する価値があり、大切な時間であることを再認識しました。と述懐しています。

そして現在2013年9月、広報誌「楽楽」が200号を迎え、来年の7月に創立27年目にして第9回の演奏会に向かっています。更に創立30周年記念の第10回演奏会も、既に視野に入れた活動が展開されています。スタッフも若い人が中心となり、技術委員会の方々によるパート練習の充実、ボイトレの定期的な実施、等全団一体となって進んでいる現状は喜ばしい限りです。

13年以上に亘りボランティアでご指導をして下さる神谷先生や、満24年間一貫して指導していただいている石川ひとみ先生への感謝を込めて、第9回演奏会、はなんとしても「音楽と真面目に向き合い、より高い音楽を求めて」努力すれば必ず成功への道は開けると信じて、満員の会場で演奏会を迎えましょう。・・・ 長い間お付き合い下さり有難うございます。 おわり

編集後記

この秋にこれまで使っていたパソコン、ウィンドーズのビスタが壊れ、止む無くウィンドーズ8に買換えた所、思うように動いてくれず、悪戦苦闘の末、Tの酒井さんの助け舟で何とか間に合わせることが出来ました。そんなわけで思う様な文字も使えず大変読みにくい誌面になってしまいましたが悪しからず、辛抱して読んで下さい。

担当:松本(義)